

(1) 蒲郡市立地適正化計画の概要と改定のポイント

1 蒲郡市立地適正化計画の概要

蒲郡市立地適正化計画は、今後進行していく人口減少・少子高齢化に対応したまちづくりを行うため、令和22年度（2040年度）を目標年次として、令和元年度（2019年度）に策定しました。本計画においては、持続可能なまちを形成するため、居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等の様々な都市機能に関する誘導区域や誘導施設を設定し、将来都市像の実現を目指すための誘導施策や目標値を定めています。

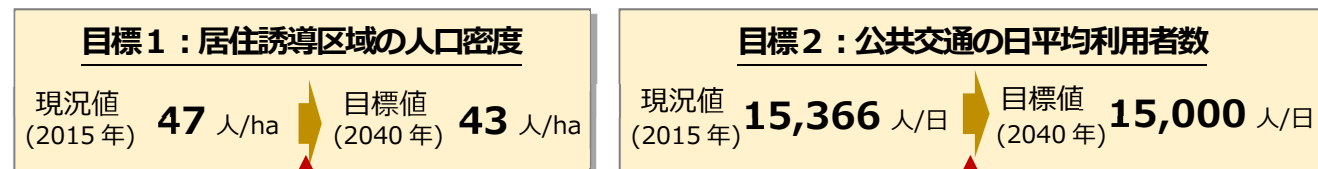
2 今回の改定のポイント

① 中間評価の実施

本計画では、設定した誘導施策の実施により、「住み慣れた蒲郡を時代の変化に対応しながら次世代へつなぐまちづくり」が推進されているかを評価するため、数値目標に対して、おおむね5年毎に継続的に確認することとしています。

今回の改定は、計画の策定からおおむね5年が経過することを踏まえ、人口・誘導施設の集積動向や誘導施策の実施状況を確認し、数値目標の中間評価を行います。

■蒲郡市立地適正化計画の目標値

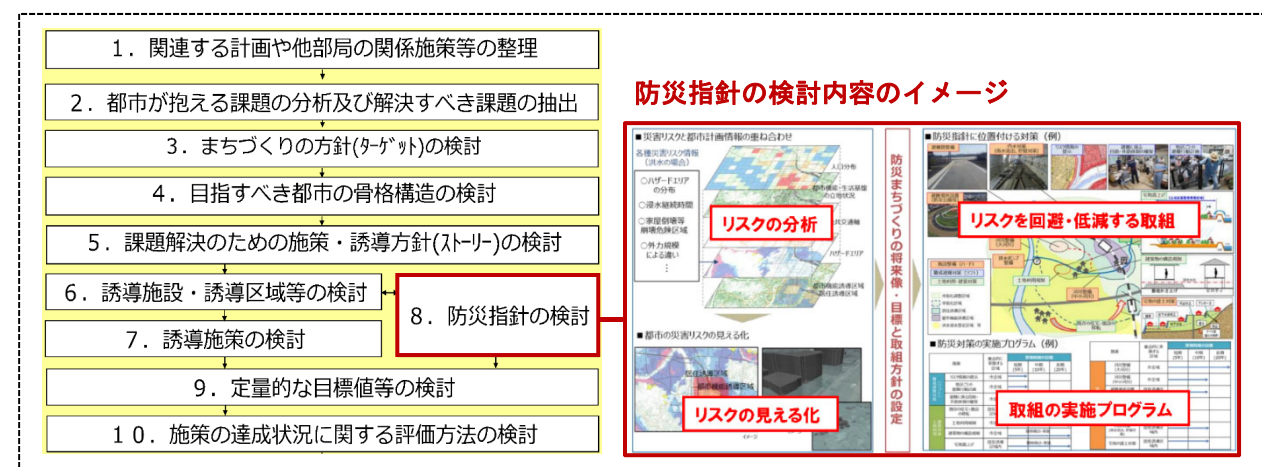


現況値から5年後（2020年）の数値を算出し、中間評価を実施

② 防災指針の策定

都市再生特別措置法の改正（令和2年6月）により、頻発・激甚化する自然災害に対応した、安全なまちづくりの推進に向けて、立地適正化計画の項目として新たに「防災指針」を位置づけることとなりました。

■立地適正化計画における防災指針の位置づけ



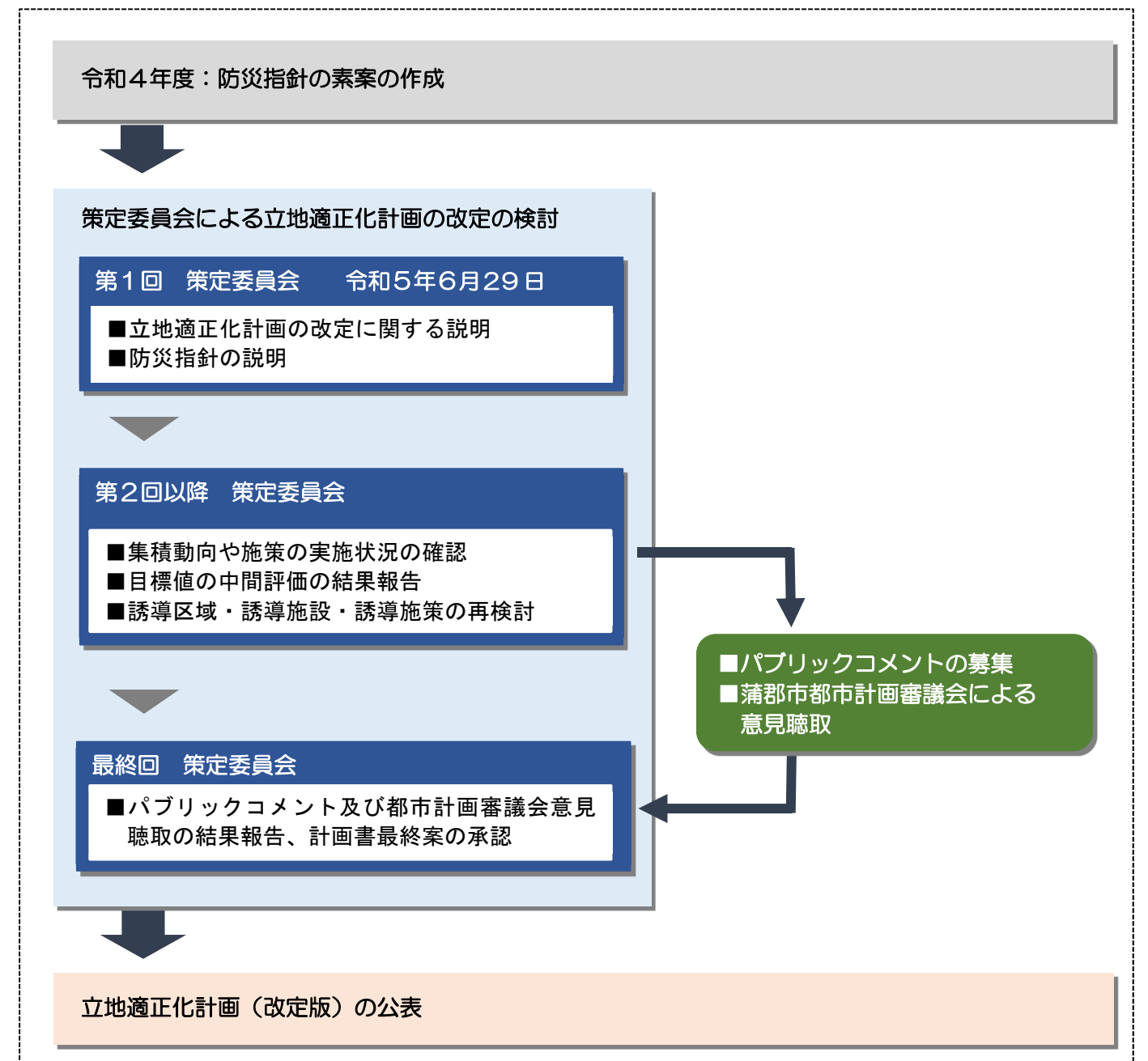
(2) 蒲郡市立地適正化計画の改定に向けたスケジュール

昨年度においては、庁内の関連部局で構成した「蒲郡市立地適正化計画防災指針検討委員会」にて協議を行い、防災指針の素案を作成しました。

今年度においては、計画全体の改定を見据え、学識経験者や関係団体、市民の方々などから構成される策定委員会を設置して検討を行うとともに、庁内の検討会議として、関連部局の担当者・所属長でそれぞれ構成する、作業部会・幹事会を実施し、現行計画の中間評価・見直しや防災指針の策定を行います。

また、都市計画審議会における説明・意見聴取やパブリックコメントの募集を行い、いただいたご意見を反映しながら、蒲郡市立地適正化計画の改定を進めていきます。

■蒲郡市立地適正化計画の改定スケジュール（案）



(3) 防災指針の概要

本市において、コンパクトで安全・快適に生活できるまちづくりを推進するため、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる防災・減災対策を計画的に実施していくことを目的に、蒲郡市立地適正化計画に防災指針を定めます。

本指針では、水災害（水害（洪水、雨水出水（内水）、津波、高潮）及び土砂災害）に対する個別の災害リスクを分析した上で、災害リスクをできる限り回避あるいは低減させるためのハード対策、ソフト対策、土地利用の誘導など、都市の安全性の確保に向けた具体的な取組を明示します。

1 対象とする災害リスク

国土交通省が公表している「立地適正化計画作成の手引き」に基づき、本市に関連する以下の災害リスクを対象とします。

災害の種類	ハザード情報・区域	備考
洪水 (二級河川)	浸水予想図に基づく区域（計画規模 L1） ^{※1} 【拾石川流域・紫川流域の 24 時間総雨量：275 mm （降雨確率 1/30）】 【落合川流域・西田川流域の 24 時間総雨量：272mm （降雨確率 1/30）】	令和 3 年 3 月 26 日公表 ・拾石川水系拾石川流域 ・紫川水系紫川流域
	浸水予想図に基づく区域（想定最大規模 L2） ^{※2} 【各流域の 24 時間総雨量：836 mm】	令和 4 年 3 月 25 日公表 ・落合川水系落合川流域 ・西田川水系西田川流域
	家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食 L2） ^{※2} 【各流域の 24 時間総雨量：836 mm】	（力川を含む）
高潮	高潮浸水予想図に基づく区域 （伊勢湾台風規模・堤防等決壊なし L1） ^{※3}	令和 3 年 6 月 11 日公表 （愛知県告示第 280 号）
	高潮浸水想定区域 （室戸台風規模・堤防等決壊あり L2） ^{※4}	
津波	津波浸水想定区域（基準水位） ^{※5}	令和元年 7 月 30 日公表 （愛知県告示第 417 号）
土砂災害	土砂災害特別警戒区域（土石流）（急傾斜地の崩落） 【レッドゾーン】	令和元年 8 月 23 日公表 （愛知県告示第 451 号）
	土砂災害警戒区域（土石流）（急傾斜地の崩落） 【イエローゾーン】	
(参考)	大規模盛土造成地	令和 3 年 3 月 31 日公表

※ 1：河川整備において基本となる降雨規模によって浸水することが予想される区域・水深を示したものを。

本市の河川では概ね 30 年に 1 回程度の頻度で発生することを想定。

※ 2：想定し得る最大規模の降雨によって浸水することが想定される区域・水深を示したものを。概ね数百年から千年に 1 回程度の頻度で発生することを想定。

※ 3：発生確率が比較的高い規模の台風が来襲した際の高潮による浸水予想図。

※ 4：想定最大規模の高潮による浸水区域。

※ 5：津波浸水想定で定める浸水深に建物等への衝突による津波の水位上昇を考慮した値を加えて定める水位。

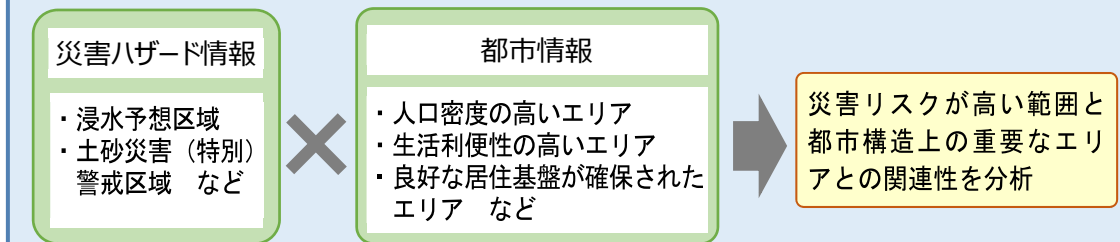
2 防災指針の検討内容

以下のフローに基づいて、防災指針を検討します。

災害リスク分析と課題抽出（災害リスクと都市情報の重ね合わせによる分析）

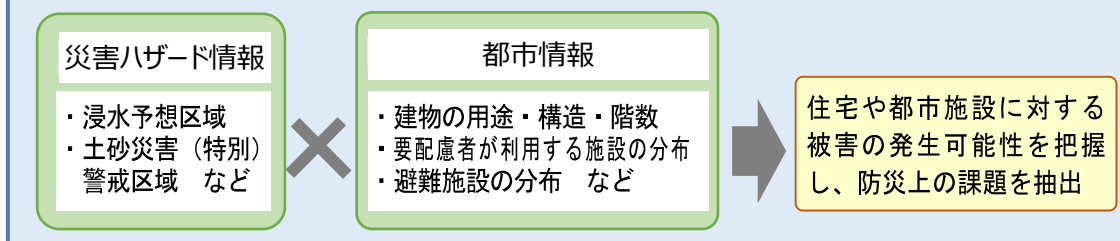
①マクロ分析

- ・災害ハザード情報と、人口分布や生活利便性、都市基盤の整備状況等の情報との関連性を分析



②ミクロ分析

- ・災害リスクの高い範囲について、建物の立地特性（用途・構造・階数）や要配慮者が利用する施設の分布、避難施設の分布等から想定される被害の発生可能性を把握し、本市の都市構造を踏まえた防災上の課題を抽出



防災まちづくりの方針等の検討

●防災まちづくりの将来像

- ・本市の特性を踏まえた防災まちづくりの将来像の検討

●災害リスクに対する基本的な考え方

- ・都市構造上の拠点や居住地の形成、災害リスクとの関連性を踏まえた防災・減災対策の考え方の検討

具体的な取組と進め方の検討

●防災・減災のための具体的な取組

- ・基本的な考え方に基づく、ハード・ソフト両面からの具体的な取組の検討

●実施プログラム

- ・各対策の実施主体と短期（5年）、中期（10年）、長期（20年）のスケジュール表の検討

定量的な目標値の検討（立地適正化計画全体の目標値として掲載予定）